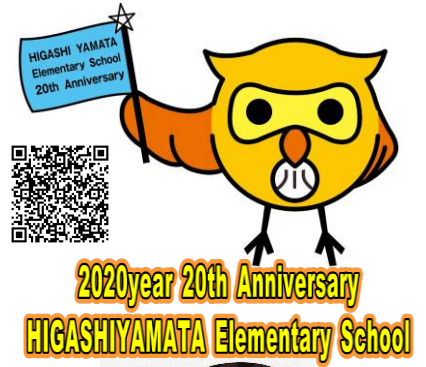


東山田 東小だより



横浜市立東山田小学校 学校だより 3月号① 令和3年2月26日発行

子どもの話に共感する→魔法の言葉



校長 宇都宮 桂

先週末は、大変暖かく初夏を思わせる天候でした。平年より気温が高く、春がそこまで来ているようです。暖かさにも誘われ、2月最終週には子ども達の体力向上をめざして「なわとびチャレンジタイム」が、二学年ごと、3日間行われました。1分間で前まわし跳びが何回跳べるのかにチャレンジです。なかよし学年でペアになり、跳んだ回数を数え合います。1月に引き続き2回目の取組なので、前回の記録を上回れるようにチャレンジしました。跳び終わった年少者に「たくさん跳べたね」と優しく声を掛ける年長者、ほとんど引っかかることなく跳び続ける年長者を憧れの眼差しで見る年少者。このようなふれあいから子ども達の心が育つことを感じました。

さて、子どもから相談を受けることがあります。友達とのトラブルだったり、自分の思いが上手に表現できなかつたり等の話です。そんなときは、ノートやホワイトボードに出来事や気持ちを整理しながら聞くようにしています。話している子どもは、内容が視覚化されるので、出来事を振り返ったり、自分の気持ちの変化に気付いたりすることもできますし、私の理解も深まります。

「とにかく聞いてほしい」という思いが強いので、「そうかー、そうかー」と頷きながら、ひたすら話に耳を傾けます。また、子どもの心を推し量って共感するように、話をオウム返しすることもあります。一通り話が済んだら「話してくれてありがとう」と伝えます。子どもは話を聞いてもらい、自分の気持ちに共感してもらえると心が落ち着き、穏やかな表情になっていきます。この段階で話が終わりになる子もいますが、「ところでね…」と、本人の気持ちを確認したり、関わっていた友達の気持ちを想像したりしながら多様な考え方を提示していくこともあります。

だれもが納得、スッキリできるようにしたいのですが、現実はなかなかうまくはいきません。そこで、少しでも子どもの心が軽くなるような考え方を、子どもといっしょに探していきます。子どもの気持ちを尊重しながら、担任、学年の先生、児童支援専任、養護教諭等、必要な先生方にも協力してもらいながら話を進めることもあります。また、事後の相談、見守り等をチーム東山田小として進めていきます。

だれもが安心して学校生活を送れるように努めていますが、最近「こうしなければならない」という思い込みの強い話が気になります。「忘れ物はしない」「宿題はやってくる」「平日登校して勉強をする」等は当たり前のことなのですが、体調不良の日に学校を休むように、努力してもできないこともあると思います。「こんな日もあるよね～」「今日はできなかったけど、明日は大丈夫さ～」等、と考えられるようになることも必要だと感じます。気持ちの切り替えができる「魔法の言葉」をもつとよいのかもしれませんが、「しなければならない」に縛られないで、魔法の言葉で楽しく安心して学校生活を送ってほしいと願います。もしお子さんからの相談があったら、子どもの話に共感していただくこと、そして、お子さんにあった「魔法の言葉」をかけていただくと幸いです。今の私の魔法の言葉は「No Rain No Rainbow」です。

卒業式は19日、残り15日間です。感染症対策のため、卒業生・保護者1名・職員で行います（当日、1～5年生はお休みの日です）。今年度も自信をもって卒業生を送り出したいと思います。

修了式は26日、残り19日間です。今年度の学習内容を次年度に繰り越すことのないように、1日1日を大切に、じっくりしっかり学習のまとめを行い、次の学年に自信をもって進級できるよう努めます。

保護者・地域のみなさまには、子ども達の成長のためにいつも温かなご理解・ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。3月もどうぞよろしくお願い申し上げます。

